

調布スマートシティ協議会 2025(令和7)年度第2回幹事会 議 事 要 旨

日時： 2025(令和7)年11月12日(水) 14:00～15:00

会場： 調布市役所5階 市長公室(オンライン併用)

出席団体： 国立大学法人電気通信大学, アフラック生命保険株式会社, 京王電鉄株式会社, 調布市,
(敬称略) 東日本電信電話株式会社, 日本郵便株式会社, 鹿島建設株式会社鹿島技術研究所, 多摩信用金庫

陪席： 富士通Japan株式会社(市委託先)

会議資料：【資料1】【1112時点】調布市スマートシティビジョン素案(中間とりまとめ)

【資料2】20251112_活動報告(市民ニーズ等現況分析プロジェクト)

1 開会

2 報告事項

(1) 「(仮称)調布市スマートシティビジョン」の策定状況について【資料1】

■ 事務局・富士通Japanからの説明

- 前回7月の全体ミーティングから市民参加の取組や協議会加盟団体へのヒアリング, 庁内各部署へのヒアリングを実施し, 内容の検討を進めてきた。2月を目途にビジョン素案をパブコメにかけていくが, 現時点ではその前段として, ビジョン素案の中間とりまとめとして現段階での案を示し, 現状のとりまとめ状況を共有するもの。
- 12月から, 次のフェーズとしての市民参加として, 本中間とりまとめを公表し, 意見をいただく予定。

■ 主な質疑・意見

- 「素案(中間とりまとめ)」は, 最終的なアウトプットのイメージそのものなのか, あるいは, 今示されているものはあくまで進め方のようなもので, 最終形は大きく変わってくるのか。
⇒最終形は章立て, 分量ともに変わってくる想定である。協議会の皆さまはじめ貴重な意見を多くいただいているが, それを大事な視点として整理して, どのようにまとめていくか, その粒度感や分量については, 2月の素案公表に向けて引き続き検討していく。
- 可能であれば, 市民はじめ様々な対象へのヒアリング等で具体的にどのようなコメントが出ていたのかを開示いただきたい。そもそも「スマートシティ」が「共創」そのものであり, 「どのような共創をしたのか」に調布らしさが出てくると思われる。「共創のまちのありたい姿」として, 「どのようなまちづくりをするか」ということまでは表されているが, 「具体的にどんなまちにしたいか」という要素が入ってくると, 市民や協議会構成団体のニーズを把握することができると考える。
- 現在, プロジェクトチームで検討中の内容も, ビジョンの検討材料になるという認識で合っているか。
⇒最後のページにある, どのように進めていくかについて述べるところに, 「異なる組織体と共に取組を進めていくとはどういうことか」という視点で, 提言のような形で取り込めるのではないかと現時

点で考えているが、どのように取り込んでいくかは、プロジェクトチームのアウトプットが出てきたところで、擦り合わせつつ検討したい。

(2) 市民ニーズ等現況分析プロジェクトチームの活動について【資料2】

■ PTメンバーからの説明

- 調布のまちの現状をWell-Being指標から分析し、今後の協議会活動の検討につなげていくことを目的にPTを設置。これまでミーティングを重ね、PTの設置目的を踏まえた活動期間やアウトプットなどについて議論し、整理してきた。
- スマートシティインスティテュートの南雲代表理事やデジタル庁のアドバイザーである多田氏に助言をいただきながら、12月下旬を目途に、今後の協議会活動につながる示唆をアウトプットできるよう活動中。

■ 主な質疑・意見

- 助言をいただく中で、ウェルビーイング指標の活用の視点以外に、調布市に対して何かアドバイスをもらったことはあるか。
⇒分析の仕方から、分析結果をもとにどんなアウトプットをすべきかというPTの活動の進め方を検討するところから、アドバイスをいただいた。調布市がスマートシティの取組を始めた経緯等の認識も踏まえた上で、実態に即して気付きになるようなコメントもあったので、アウトプットの中にも反映させていきたいと考えている。
- 産学官民で取り組むときには、腹を割って本音で話す形を作っていないと、なかなか具体的な策になっていかないということを共通して助言された。また、今後、腹を割って話す具体の方法について議論することも必要ではないかと考えている。
- 既存の会議体だけではないかもしれない。腹を割るには、という話をする中で、議論が活発化するための示唆にも期待したい。

3 各構成団体からの情報提供など

4 事務連絡・閉会